

19年度 第3回子育て・環境・魅力づくり部会 摘録

開催日時 平成19年7月3日(火) 午後6時30分～8時30分

会場 幸区役所プレハブ会議室

参加委員

専門部会B委員：今井淑子部会長、松世三重子副部会長、酒井道子、庄司佳子、菅野勝之、
成田信子、根本健

事務局(総務企画課)：高橋主幹、北村主査、小出職員、吉田職員

傍聴者：1名

次第

1. 報告事項

○区民会議の報告

2. 議題

1. 「安心して子育てできる環境づくり」の部会まとめについて
2. その他

開 会

本会議の情報公開に関する委員の了承。

次第、配布資料の確認。

区民会議報告

(今井部会長)

6月7日の区民会議で、資料の検討項目1～5まで報告をした。意見を頂いたので、それをもとに議論してまとめていきたい。

(松世副部会長)

検討項目1「子供と共に過ごせる安心・安全な環境整備と子育ての交流の場づくり」ということで、地域での子育て支援、交流の場として、どのような地域資源を活用していけばよいかを聞いた。認可保育所の園庭開放や地域子育て支援センター「かんがるー」の開設等をもっと広報したらどうかという意見が参加から出された。

検討2「子供の豊かな心を培う環境づくり」について、子供達の0歳～3歳に形成される豊かな人間性を育む心の教育の一つとして、絵本の読み聞かせの推進を挙げて意見を聞いた。子供たちの豊かな心を培う方法として、音楽を活用したらどうかという意見が出された。

検討3「家にお母さん・お父さんの精神的なサポートを含めた支援と情報発信」について、子供の定期健康診断の際にアンケートを実施して、年齢に合わせた問題点をとっていくことで、ニーズにあった課題が見えてくるのではないかと。情報が氾濫し、本当に必要なものがわからなくなっている状況があるが、子育て広場等でのイベントや情報がうまく伝えられ、活用されると良いのではないかと。全体会で意見をお伺いする項目として、紙媒体・ITをもっと上手く利用する方法はないかを聞いたが、特に全体会では、意見が出なかった。

検討4「働くお母さん・お父さんの環境整備と支援」について、保護者の働く形態に合わせた保育の充実。仕事や子育てを受けやすい環境を整備する必要。「ふれあい子育てサポート事業」について、シニア世代も巻き込みながら市民館を会場に子育てヘルパー登録研修を増やして、子育てヘルパーを養成したらどうか説明した。全体会で意見を頂きたい項目として、地域の力を借りて子育て支援をしていく点で、他にどのような団体の協力やどのような仕組みが考えられるかを聞いたが、特に全体会では、意見が出なかった。

検討5「地域に根ざした世代を越えたサポート」について、地域における主任児童委員や民生委員、地域教育会員等の協力、地域シニアの方にも協力してもらい、地域交流の薄い家庭との繋がりを気軽な形で声かけができる。地域での多世代によるサポートができるとよいと説明した。地域やシニアの方たちの協力をどのようにすれば得られるか、他にどのような団体の協力やどのような仕組みが考えられるかを聞いたが、特に全体会では、意見が出なかった。

(今井部会長)

全体会の意見の他に付け加える意見がありますか。

検討項目ごとに、さらに具体的な検討をしたいと思う。

(菅野委員)

今までの検討は、これで良いと思う。付け加えるとすれば、次世代育成支援のための法律。第21条第1項にある次世代育成支援対策地域協議会というのが、幸区にできている。その中で、地方公共団体事務局の次世代育成支援推進を行う者は、この対策地域協議会の内容を掴んで、それに基づいてやるべきだと書いてある。子育てを論じる際に、次世代育成支援対策地域協議会の内容を出してもらって、1回は討議してもらいたいという要望を出します。

(今井部会長)

そういう協議会はあるのですか。

(菅野委員)

あると聞いている。

(事務局)

次世代計画の策定を図る上での審議会という位置づけがあると思う。推進する上で、次世代育成支援対策地域協議会にそういう意見を聞いているのか。川崎市の中に計画を推進する上では、どういう組織があるのかを確認します。実際の子育て支援として、幸区こども総合支援ネットワーク会議が取組みをしている。

検討項目の部会まとめ

(今井部会長)

区民会議で検討項目1について、認可保育所の庭園開放や地域子育て支援センター「かんがるー」の開設等、もっと広報した方がよいという意見が出されましたが、この部会では、具体的にどういう取組み方向としていくか。皆さんや区民の方に分かりやすい方向で提言していければと思う。

課題としては、安全にベビーカーで行動することや、乳幼児をもつ親だけではなく、全ての人に危険が少なく、かつ、安全に行動できるような駅や道路整備が必要ではないか。

子供たちの行動の場の一つである公園で、世代を越えて安全に遊べる魅力ある公園づくりを進めることについては、どういう方向とするのか。

お寺や神社の境内や小学校区に子育て交流の場を持つこと等の意見が出ているが、この部会としては、どのように提言していくか。

(庄司委員)

部会検討をまとめるにあたって、捨てがたい部分がたくさんあるが、具体的な形として見えてくるのは、小学校区に子育て交流の場があると良いということ。

(菅野委員)

川崎市内にこども文化センターが59ある。平成18年度までは、17が市民活動支援センターの管轄で41が川崎市でやっていたが、今年4月から、こども文化センターは市民活動支援センターの管轄になった。市民活動センターの管理の中で、市の財政をいくらかでも安くしたいから市民活動センターに移行するのは反対ではないが、それによって、こども文化センターの子どもに対するサービスの低下があってはいけない。こども文化センターがそういう第3セクターに委託されたとき、子どもに対するサービスが悪くなっていないか、地域なり親が監視する必要がある。

こども文化センターの充実を図るといって1行を加えて欲しい。

(庄司委員)

こども文化センターは中学校区ですね。拠点としては、いい場所にあるのかなと思う。

(事務局)

ここでいう場の問題とは、「場所」の問題とそこで交流するだけかがいて、「交流を促す場」の2つの場のことでよいでしょうか。こども文化センターもいろんな形で利用されている。午前中等、子育てグループへの貸出しも行っている。この中で今、6つのこども文化センターがある。そのうち4つぐらいのこども文化センターを子育てグループが活用している。子育てフリースペースでは、場所だけでなく、コーディネートする人がいて、事業を行っている。

(今井部会長)

交流できる場の活用ということで、こども文化センター等を活用して場を作っていこう。というのと、その場での事業をもう少し頻度が増えていくこと。

(庄司委員)

南加瀬こども文化センターでの子育て広場は、誰でも参加できる。

(菅野委員)

北加瀬こども文化センターは、その前に民間の白山幼稚園があって、広場になっていて公園があるので利用しやすい。御嶽神社の中は、駐車場になってしまっている。御嶽神社は民間なので、こちらの要望だけでは使えない。

(松世副部会長)

小学校区内にそういう施設があるのですか。

(成田委員)

例えば、町内会館。きれいな所はたくさんあるが、使いやすい・使いにくいがある。

(今井部会長)

小さいエリアで見ていくなら、町内会館なんかも取り入れられるので、入れるなら町内会等の力をお借りして、小学校区内にベビーカーで歩いていけるような子育て広場の開始を目指していく。小学校の廃校になったところとか。河原町地区のように、児童委員さんとか町会の方が中心になって、子育て広場を開催することが考えられる。

こども文化センターや町内会館を活用する。認可保育園の園庭開放の情報を広報する。

(酒井委員)

園庭開放というのは、あまり知られていないようだ。

(松世副部長)

園庭開放と書いてあったので、保育園の先生方にお話を聞いてみる。なかなか利用されていないのでは。子育てネットワーク会議というのがあって、そこで情報を収集してもらうのはどうか。

(酒井委員)

保育園の先生もいてコーディネーターになるが、利用者からは、利用しづらい、行きづらいという声も聞いた。

(菅野委員)

実際に民間の幼稚園の方が管理責任はあるので良い。採算性がないのが現状で、園庭開放で外部の子どもを受け入れるような体制はできていない。

(今井部長)

できることからやればよいので、ネットワーク会議とかで呼びかけてもらって、積極的に園庭開放をしているところから、こまめに情報を頂いて発信していく。

(酒井委員)

保育園も保育相談を開いたりしているが、なかなか広がっていかない。それをどのような形で広げていくか。

(今井部長)

検討項目2「子どもの豊かな心を培う環境づくり」について、全体会で音楽を活用したらどうかという意見を頂いた。それをどのような形にまとめていくか。

(松世副部長)

本の読み聞かせをだれにお願いするのかというのもある。

(成田委員)

子どもたちに対して読み聞かせという部分でいうと、幸区に図書ボランティアの方が2人いる。ボランティアの方2人を中心にして、何の本を選んだら良いのか、また、どのように派遣をしていったら良いのか。読み聞かせセンターというものを幸区に置いて拠点をつくって、そこから発信していくとか、いろいろ音楽ともコラボレーションできるようなもの、読み聞かせセンターみたいなものができると思う。

(庄司委員)

例えば、図書館に読み聞かせセンターを置くとか。

(成田委員)

私も漠然としているが、図書館にちょっと委託して、その2人がやってくれて、それが広がっていく形が良い。

(松世委員)

ボランティアで読み聞かせの人たちを募集するとか。

(成田委員)

今、その2人のボランティアの方に小さい子の読み聞かせの講習会をやって頂いている。小・中学校のボランティアの講習会もやっている。どこに問い合わせた方がいいのか悩んだときに、図書館にあれば良いのだが、そのような形でできると提案として繋がっていくのではないかと。

(松世副部長)

幼稚園や保育園では、常に音楽を流していると思うが、小さいときからクラシックを聴かせるのは、非常に良いことだと思う。分かって分からなくても良いから、クラシックを流すことを薦める。まずは、小さいときから音楽を聴かせる。

(庄司委員)

絵本の読み聞かせと音楽がドッキングした形で、野外でも場内でもよい。コンサートプラス読み聞かせみたいな会を考えてみても。読み聞かせも加わったコンサート。子どもも多少泣いてもいいよみたいな。

(今井部長)

音楽と読み聞かせを活用して、子どもの豊かな心を培うという形でまとめる。

(酒井委員)

こども文化センターで、読み聞かせの会・お話し会。そういったものを取り入れてみるのはいかがでしょうか。

(庄司委員)

先ほどの読み聞かせセンターのような、情報がすぐわかるような仕組みもあったらよい。

(菅野委員)

教育問題と土木問題は、区役所から情報が出てこない。道路の問題とかも。具体的なことについては、この間みたいに、ここがおかしいよということが言えるけどね。このように、あくまでもここで討議することは、要望として出すだけ。

(酒井委員)

古市場の地域子育て支援センターで、読み聞かせをしてくれて、そういうときに音楽を取り入れてもらうことも考えられる。

(松世副部長)

来年度になりますが、子育てのイベントの前にコンサートをやることはできます。たまにそういう催しがあってもいいなと思う。モデルの形になって、いろいろな場所でやってくれるようになるといいと思う。

(今井部長)

検討項目3「家にお母さん・お父さんの精神的なサポートを含めた支援と情報発信」について、子供の定期健診の際にアンケートを実施して、年齢に合わせた問題点をとっていくことでニーズにあった課題が見えてくるのではないかと。

子育て広場などのイベントや情報が、上手く活用されると良いのではないかと意見を頂いている。全体会での意見はなかったが、定期健診の際にアンケートをすることは、すぐできると思う。

(成田委員)

子育て世代の方だけがという情報ではなくて、全体的にもっと上の年代の方からも情報を得る。実際に自分も母から情報を得ている。子育て中で忙しくて読み逃していた情報も、家の方からこういうのもあるというように教えてもらうことも多い。全世帯に情報を回覧板で回すというのは難しいのか。

(松世副部長)

アンケートをとっても、その結果が皆さんに知れ渡らなければ、意味がない。

(成田委員)

子育て中のお母さんには、こういう大変な部分があったのだということをもう一度思い出す機会があって、共感ができる部分があればよい。

(今井部会長)

回覧板も、ただ回すだけで若い人はあまり見ていない。インターネットでは高齢者が困る。情報が行き渡るようにするのは、なかなか難しい。

(庄司委員)

保健福祉センターのシニアの方が利用する場所に情報を置いては。対象を限定せずに情報の置き場所を変えてみる。

(今井部会長)

「お散歩に行こうね」を駅とか、老人いこいの家とかに置くのはどうか。

(酒井委員)

シニアの情報と子育ての情報は、保健福祉センターや社会福祉協議会にも両方置いてある。

(今井部会長)

ただ、やっている部署が違うので、置いているところが違う。

(菅野委員)

幸区の中で、産婦人科と小児科のお医者さんはどうなのか。全国的に不足している。救急センターなどがあっても実際、緊急時に対応できなければ意味がない。専門部会 A に荒井先生が医師会から来ているので、幸区の乳幼児に対する体制はどうなのかをお聞きする。

(今井部会長)

「お散歩に行こうね」の内容を充実するのと文字を大きくし、発行部数を多くする。置き場所を今まで置いてある所に加えて、病院だとか老人いこいの家とか、もっと人の目に触れる所に置くように協力してもらおう。

(松世副部会長)

シニアの方にも知ってもらおうということですね。

(事務局)

年配の方の経験とか、意見も家にいるお母さんの精神的サポートとしては必要ですという話は、全体会でもしていた。年配の方の経験とか、意見をサポートの上に活かしてもっと積極的にやろうという趣旨ですか。

(成田委員)

その前提として、みんなが知っていなければならない。

(今井部会長)

子育てのイベント等の情報が、子育て中の人だけにしか行かないのはおかしい。子育てのイベントでもシニアの方の目の触れる所に置く。

(成田委員)

二世帯のお家とか多いと思うので、シニアの方にもきちんと分かってもらえると良いのではないかな。

(庄司委員)

小児科とか診療の待ち時間の合間にも読めるし、商店街にも置いてあげようというような場所ができるかもしれない。

(今井部会長)

検討4もかぶってくるかもしれませんが、保護者の働く形態に合わせた保育を確立、手厚い環境の整備、ふれあい子育てサポート事業について、シニア世代を巻き込みながら区役所や市民館を活用して、子育てヘルパー登録研修によって子育てヘルパーの養成をする。

他にどのような団体の協力やどのような支援が考えられるか、全体会で挙げたが意見はなかった。子育てヘルパー登録研修を幸区内で増やしていきたいという要望で行政は動いてくれるのか。

(事務局)

行政のもっている区役所や施設の場を提供しますという投げかけはあると思う。

(松世副部会長)

介護ヘルパーも資格を取って、時給いくらで働いている。子育てだって、そういうヘルパーさんを養成して、時給いくらという形でやっていったらよいと思う。親が2時間預けたいときに来てくれるとか。

(菅野委員)

一番簡単なのは、NPOをつくって、登録研修した養成したヘルパーさんを増やす。民間で組織を立ち上げて、必要ならば行政から予算がいく形で。

(今井部会長)

ふれあい子育てサポート事業というのは、しっかり整備されており、全市的に行われているもの。幸区内でもっと活用されるように動いてもらいたい。

検討5は、検討3にも重なってきているが、地域の方にも協力してもらい、地域交流の薄い家庭との繋がりを気軽な形で声掛けができるとよい。

(成田委員)

引きこもりがちな人でも、商店街に買い物に出かけたときに、子どもを預けられるセンターみたいなものがあればよい。

(今井部会長)

商店街の真ん中とかに子育てのための空き店舗を使ったりしたものがあれば、子どもを少しの間、預かったりできる。

(成田委員)

どうしても家にこもりがちな人でも、買い物には出かけて行ったりするので、そういう所があると良い。

(今井部会長)

場所を提供してくれる制度があって、やってもよいという団体があれば可能。幸区内の商店街に協力を求めて、そういう場所をつくっていく。シニアの方々に作る子育て支援の団体ができればよい。

川崎市経済局で、団塊世代を対象に“達人倶楽部”というものをつくり登録してもらって、そこで仕事をしたい人は、仕事を紹介する、ボランティアがしたい人には、ボランティア団体を紹介する人材センターのような役割のものをつくろうとしている。そこから幸区に紹介してもらえればよいと思う。

町内会で出されるのは老人クラブで、今活躍している人は、手一杯だと思う。地域に根ざしたサポートということで、商店街・達人倶楽部等との連携をとりながら地域で子育てをサポートする仕組みをつくりたい。

(事務局)

この後の作業として、部会としてのまとめの資料を作って説明しなければならない。その作業をどのようにやるのか。

その作業をするにあたり、もう一回、必要な部分は確認をしてもらって、間違いのないようにしてもらうことが必要。これまでの議論を聞いていて、検討内容に重複している部分がある感じがするが、いかがでしょうか。

(今井部会長)

例えば、検討項目3、4、5で、重なっている部分が多ければ、合わせても良いと思う。

(事務局)

検討項目を人の問題として、こういう人が必要だというような話をしていると認識している。検討のまとめとしてどのような形にするのか、もう一度確認してもらった方がよい。議論の中で、環境整備の中にベビーカーでの移動の問題・駅や商店街を含めた道路整備の推進が必要ではないか、魅力ある公園づくりを推進したいとか、お寺や神社の場の活用も良いというのがあり、検討のまとめのときに、どのように扱うのかまで話がにつまんでいない。この中で具体的な取組としては、子育ての喜びや楽しみのが、小学校区に各一ヶ所あると良い。具体的には、町内会や子ども文化センターの活用を図る。ここで交流の場を広げていく。

ベビーカーの問題・駅や商店街を含めた道路整備の推進が必要ではないか、公園づくりを推進したいとか、お寺や神社の活動について、課題として示しておくだけなのか、これも提言として出すのか。ここの整理がされていない。要素は全部あるが、整理の仕方、例えば、「子どもと共に過ごせる安全・安心な環境整備と子育ての交流の場づくり」については、このような「課題」があるというリード文を入れて、「具体的な取組」としては、子育て広場を小学校区に一ヶ所ずつ広げていく。町内会館や子ども文化センターの活用をしていくという形にまとめるという方法がある。

(今井部会長)

こういう「課題」があって、「これに焦点」をあてて、このように取組むという形にしておく。

(菅野委員)

具体的な方向性まで出さなければならないのか。課題に対して、一つ一つ対応していくと大変である。お寺や神社についても民間なので、こちらで何かを決めるわけにはいかない。

(事務局)

お寺や神社の場の活用ということについて、検討のまとめとして、具体的な取組みとして残る扱いなのかそうではないのか、確認をしてほしい。

(今井部会長)

具体的な取組にはなっていないが、このような話が出たということとして残す。

(事務局)

全体会議で出た意見についても保育園の園庭開放については、具体的な取組として、もっと知ってもらって利用してもらうための取組を進める。子育て支援センターの取組についても、同じような形をとることによろしいのか。

課題として残す話が出たが、取組みとしてまでまとめていないところがあり、わからなかった。事務局で資料をまとめる方向であれば、この辺を整理してもらいたい。もしくは、この前と同じように、報告される方と事務局とで、一緒にまとめるということでも。まとめ方をはっきり決めた方がよい。

(今井部会長)

事務局とやっていくという方向でまとめていきますか。

(事務局)

検討2の「子どもの豊かな心をつちかう環境づくり」のところで、年齢を0歳～3歳に限定しているのかどうか確認したい。

(今井部会長)

年齢制限は必要ない。年齢を指定しない方が良いかもしれない。

(事務局)

読み聞かせとか音楽をあわせて取り組む機会を多く提供していくのか。団体に読み聞かせの会や音楽の会を開いてもらうのか。

(今井部会長)

事業として団体にやってもらう。

(事務局)

お母さんやお父さんが子どもに読み聞かせをするための講座も必要か。

(成田委員)

お父さん・お母さんが自分の子どもに読み聞かせをすることが前提になる。

(事務局)

検討3では、2つが、具体的な取組みになると思う。1つが定期健診時にアンケートを実施する。2つ目が子育て広場等のイベントを行ったときに情報を提供していくことか。書いていないが、シニアの方にも関心をもってもらうための情報の提供としては、「お散歩へ行こうね」の活用というところか。

(今井部会長)

部数なり、配布場所を広げるために予算をとってもらう。「散歩に行こうね」は、区役所と市民館ぐらいにしか置いていない。

(事務局)

検討4「働くお母さん・お父さんの環境整備と支援」ということで、働く形態に合わせた保育の充実、仕事や子育てをしやすい環境を整備する必要があるということは、課題として残しておくということでしょうか。具体的な取組みとしては、ふれあい子育てサポート事業について、市民館や区役所を会場にして、子育てヘルパー登録研修ができる場を増やして、利用しやすいようにするというところでしょうか。シニア世代を巻き込みながらという部分については、具体的な話まで至らなかった。有償のボランティア・NPOみたいなものを作っていくという話も出ている。検討項目の4と5を整理してほしい。

(今井部会長)

ふれあい子育てサポート事業の具体的な取組みとして、子育てヘルパー登録研修ができる機会を増やしていく。

(菅野委員)

まちづくり推進委員会では、町内会を配布に使うというのが原則だった。町内会に配らなくてはいけないのは、市政だよりと選挙のときの広報だけ。これは、お金を町内会に渡しているから義務的にやらないといけない。その他については、町内会はボランティアでやっているので、回してないことで文句は言えない。回覧板を回さない町内会は、いくつもあるが、それは承知しておかないといけない。宣伝することを考えるときに、町内会長に頼めばいいというものではない。

(今井部会長)

検討5「地域に根ざした、世代を越えたサポート」ということで、地域にどのような団体の協力が得られるかということで、全体会議では意見がなかった。団塊の世代の力を借りながら、地域に根ざしたサポートをしていく。

(菅野委員)

60歳を過ぎても老人クラブに入らない人がだんだん増えているため、区内の老人クラブは、会員獲得のため必死に動いている。老人クラブは、上から作ったものではないので、一つ一つが独立していて、それが集まったもの。上から情報を流しても、各老人クラブに情報が流れるかというと、そうではない。きちんと協力を得たいならば、幸区全体の老人クラブや地域の老人クラブで討議してもらってやろうということにならないとやらない。60歳以上は、老人クラブに入って頂きたい。60歳以上のシニアに連絡が取れるのは、ごくわずか。

(事務局)

達人倶楽部を使ってというのがあったが、それはどうするのか。

(今井部会長)

達人倶楽部と連携して、情報をもらう。商店街の人との連携もこれからなので。

(庄司委員)

団塊の世代の人は、まだ地域との接点がなかったりするけれど、子育てのサポーター講座を受講して、地域子育て支援センターのようなところで一緒に運営していこうという流れで場をつくっていき、やりたいという人が増えてくるのではないか。

(今井部会長)

介護ボランティアとかの人は、皆でテーマを決めて動く。子育ても同じように動けるのではないか。

(庄司委員)

さいわい子育てネットワークの方たちのお話を聞いても、運営するのにも四苦八苦していて、サポートがほしいという声をよく聞くので、新しい旗を挙げて、そういう団塊の世代の人たちに集まってもらうのも一つの方法かもしれない。

(菅野委員)

まちづくり推進委員会で、幸区のお風呂屋さんを回って歩いて、1冊の本にした。それから3年間、100円の会費で何人か地域の人がお子さんを見ていて、その間にお母さんがお風呂にゆっくり入るといった形を続けている。こういうことは、だれがやっても良い。問合せ先は幸区地域保健福祉課。赤十字奉仕団が援助している。みんなができる問題を提言すれば、だれかがそれに飛びつき、やってくれるようになればよい。

(松世委員)

できることから、長くやっていくことが大事。

(菅野委員)

自分は60歳の時から、もう15年間老人会に入っているが、カラオケと神社の掃除だけでは、用事が他にあると参加しなくなる。神社の掃除も大切だが、それが主力になっている老人会が割と多い。団塊の世代を掴める内容ではない。

(今井部会長)

達人倶楽部、いろんな方がいらっしゃるので、仕事したければできるように、また、地域で何かしたい人もいる。そういう人たちをうまく使う。町内会と市の達人倶楽部との連携を図りながら採り入れて頂いて、団塊の世代、男性女性等の力を借りる。

(事務局)

地域子育て支援センターと一緒に活動してもらうような形でのサポーター講座みたいな流れを作っていくという部分の扱いはどうするか。また、達人倶楽部とはどういうものなのかの情報を頂きながらなのかもしれないが、達人倶楽部について、どのように協力してもらう仕組みと流れをつくるのか。

(成田委員)

子ども文化センターで活動している人と達人倶楽部の人との連携をとる。

(庄司委員)

達人倶楽部の実態がわからない。

(今井部会長)

人材派遣みたいなものなので、その人たちがまとまって動いている団体ではない。

(庄司委員)

では、それが主流になるものではない。別にコーディネートする必要がある。子育てボランティアをやりたい人に集まって頂いて、勉強してもらって、その後の活動の場が直結している形にした方が具体的で、区民の方にもこういうことができると伝わる。

(菅野委員)

具体的に区民会議で提言をした方がいいのかどうか。子育て地域支援対策協議会というのできているので、そこに課題を投げかける。自分たちは、子育て地域支援対策協議会を育てたり、お手伝いをしたり、応援したりするという立場を明確に区民会議に出す。

(今井部会長)

8月の中旬が全体会議なので、その前にもう1回部会を開くか、それとも、何人かに集まってもらって行くか。

(事務局)

7月29日の前に全員が集まるのは、厳しい日程かと思う。来週の終わりぐらいに提案された方と部会長で話し合っ、皆さんにまとめたものを送って意見をもらう方法もあります。微調整で済むのであれば、そのような方向でいかがでしょうか。

(今井部会長)

7月12日に、提案された方などが集まり、まとめることとしたい。

その他

(事務局)

今後の区民会議のテーマとして、「ごみ減量・リサイクル」というテーマと「緑化推進」というテーマが課題として残っている。今のまとめができ上がって、次に部会のテーマとして、どちらのテーマを先にやるのか検討してほしい。

(今井部会長)

「ごみ減量・リサイクル」から始める。資料等があれば、お願いしたい。

(事務局)

最初は、所管しているところから、幸区内の取組みの現況を説明して頂く形を考えている。区役所の中に所管部署がないので、生活環境事業所とか、環境局本庁の担当に説明に来てもらう段取りが必要となる。

(松世副部会長)

7月27日に夢見ヶ崎動物公園慰霊塔前でロビーコンサート実行委員会、日吉の「わっ」と日吉商店街連合会の3団体の協働で、「夢こんさあと」を開催する。「夢こんさあと」の休憩の時

間に、日吉の「わっ」の活動をしている6団体の活動をスライドで紹介する。日吉商店街連合会の方たちにお願ひして、ちらしとポスターを地域の皆さんに配った。

(庄司委員)

日吉の「わっ」で、日吉の宝物は何かをテーマにして、ワークショップを夏休み中に2回開く予定。乳幼児からシニアまで幅広い年代の方が来て、それぞれ日吉の地区の宝物はなんだろうということを通して交流をしたい。今後に向けて、区づくりに繋げていきたい。

1回目は7月31日の午後、2回目は8月26日の後に小学校で開催する。1回目に問題提起をして、夏休みが終わる頃に2回目を開催して、ものづくりを通して交流を深めていく。今回は乳幼児親子25組で、100人対象。

(松世副部長)

市政だよりの幸区版に“夢こんさあと10周年”で載っているのひ、見てください。

本日は、ご苦労様でした。